

IBAで得たもの

—「問題解決能力」を基礎とする 「モノを考える視点」と「学習体質」—

NTN株式会社 SNR Roulements/出向 木下俊平



社会人学生が一般学生と比べて最も不足しているのは「時間」だと思います。私も他のIBAの皆さんと同じように、IBAから何を学べるか、他の何を捨てるか、学んだことをどのように現在の仕事や将来のキャリアに活かすかを日々考え、「時間」を捻出してきました。IBAに在籍していたのは2005年4月から2007年3月、働き盛りの40歳代中盤、大手製造メーカーであるNTN株式会社の経営企画部副部長という立場であり、個人としての高度なパフォーマンスが要求された上、役員に就任していかくつかの関係会社の経営や部下の育成など様々な配慮や目配りも必要でした。仕事が“主”で学習は“従”と割り切る一方、強制的に学習時間を作るために、例えば「平日、閉館時間迄15分以上時間が取れば必ず梅田サテライト教室か上ヶ原図書館に行って書籍や資料を読む」といったルールを決めて実践しました。これは「毎日学習している」という前進感と同時に「時間が足りない」という焦燥感も生み、土日祝日や通勤時に空き時間を見つけて学習に充てる集中力とモチベーションを高める効果がありました。足りない時間を何かで補う必要があったからこそ、与えられた環境の中で自らの頭で考え、優先順位付けと選択を繰り返す中で、単に「あれかこれか」というトレードオフにせず、「あれもこれも」と欲張り、矛盾を乗り越え、最大の成果を生むための「問題解決能力」を鍛えることができたのだと考えています。

私がIBAから得たものは、この「問題解決能力」を基礎とする「モノを考える視点」と「学習体質」の好循環です。IBAの2年目に業務負荷が急上昇し、複雑かつ多様な業務課題の解決が求められ、IBAでの学習継続が難しくなったことから、このままのやり方では仕事に役立つような知識や視点は得られないという強い不安に苛まれました。この不安に後押しされ、「一般論ではなく仕事に直結し、自ら確信でき、皆も「そうだ」と共感できるようなデータ分析を元に、拙くとも自らの力で理論化して、仕事に実際に役立つ知識や視点を持ちたい」と強く考えるようになったのだと思います。これを解決したのが課題研究でした。素晴らしい教授陣の指導の下、拙いものでしたが「モノを考える視点」を課題研究論文として整理することができました。課題研究で得た視点は自らの頭で深く考えたものだからこそ、それと矛盾する職務経験や考えに接したときに違和感をより強く感じさせ、注意深い観察を促し、詳細に分析しようとする「学習体質」を形成することに繋がりました。IBAを修了した後も図書館通いは続き、IBAの連続セミナーや研究会・学会等に参加し、更に自らの考えを研ぎ澄まし、仕事と学問を両立させたいと考え、経営戦略研究科博士課程に進学しました。残念ながら進学した途端に、経営企画部で自らもその買収に関与したフランス企業に出向となり、買収先企業と自社との統合という新しい課題に取り組むため、やむなく休学しましたが、今後も問題解決能力を鍛え、モノを考える視点を更に整理して、学習体質を維持・向上させる中で、IBAで得たこの好循環を実務に生かしてゆきたいと考えています。